

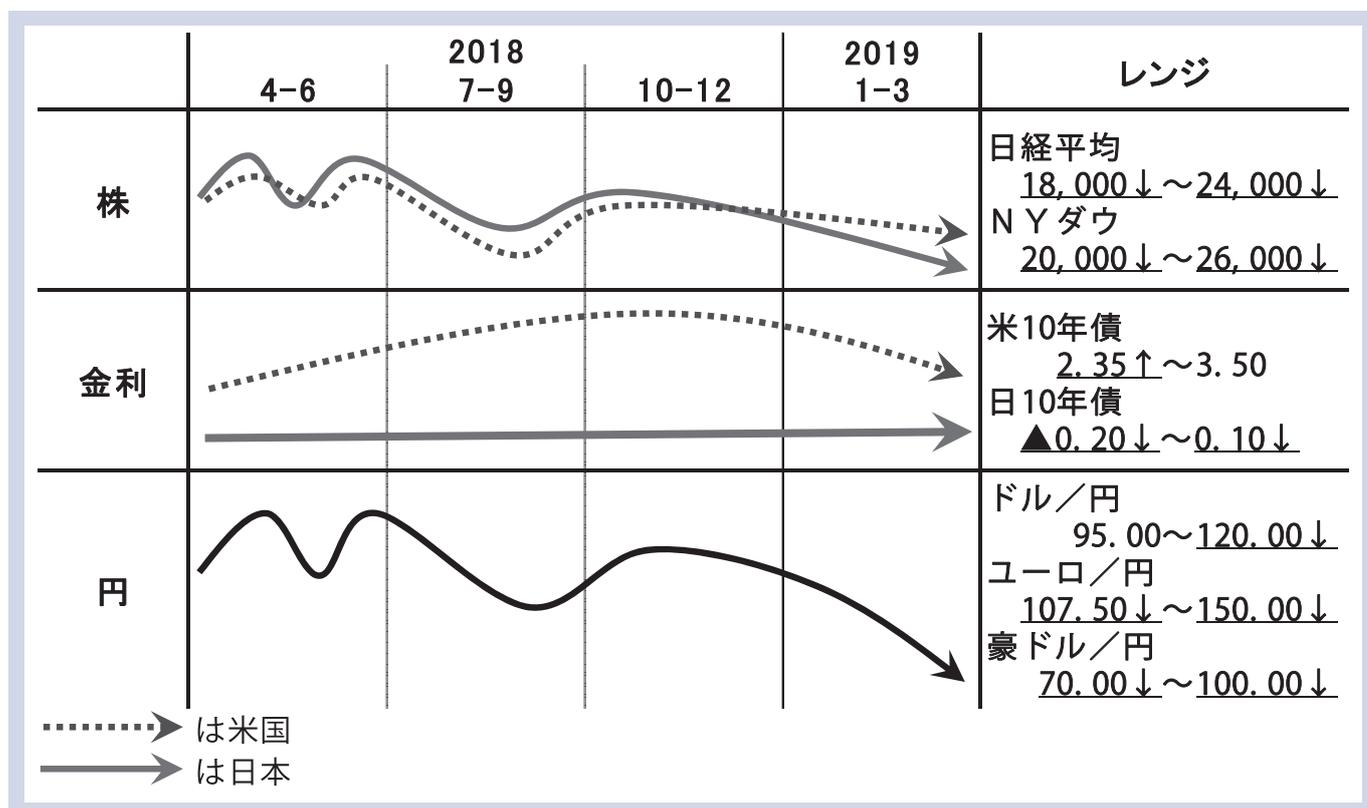
各国経済の6ヶ月見通しと向こう1年間の市場予想

(4月5日時点)

I. 各国経済の6ヶ月見通し

	コメント
① 日本	足元で生産活動に足踏みがみられるが、一時的なものとみられる。世界経済の回復に伴って輸出が増加基調で推移することに加え、企業収益の改善を背景として設備投資も持ち直すとみられ、企業部門主導で景気は先行き回復基調で推移するだろう。
② 米国	米国経済は、雇用・所得、資産残高の増加、緩和的な金融環境等が続くもとで、減税による個人消費の押し上げを背景に、堅調さを維持する公算が大きい。堅調な景気拡大により労働市場の逼迫が続く中、FRBはバランスシートの縮小や年3、4回の緩やかなペースでの利上げを継続すると予想される。
③ 欧州	ユーロ圏経済は、①雇用環境改善による個人消費の増加、②世界経済の回復継続、③企業の投資意欲回復を背景に、堅調な拡大基調を持続する公算が大きい。ただ、資産買い入れの縮小を開始したECBIは、2018年中には新規の買い入れを停止する可能性が高い。緩和マネー縮小による金融環境の変化やユーロ高進行に注意が必要となる。
④ アジア・新興国	アジア・新興国経済では、世界景気の自律回復による外需底入れの動きが景気押し上げに繋がっている。米トランプ政権の貿易制裁は中国を標的とするなか、これが長期化すれば、輸出依存度及び中国経済への依存度が相対的に高いアジア・新興国経済には深刻な悪影響が出ることも懸念されるだけに、今後の行方には注意が必要となる。

II. 向こう1年間の市場予想イメージとレンジ



(注)記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。
レンジについては、前月号から変更した値に下線を引いております。(上方修正:↑ 下方修正:↓)